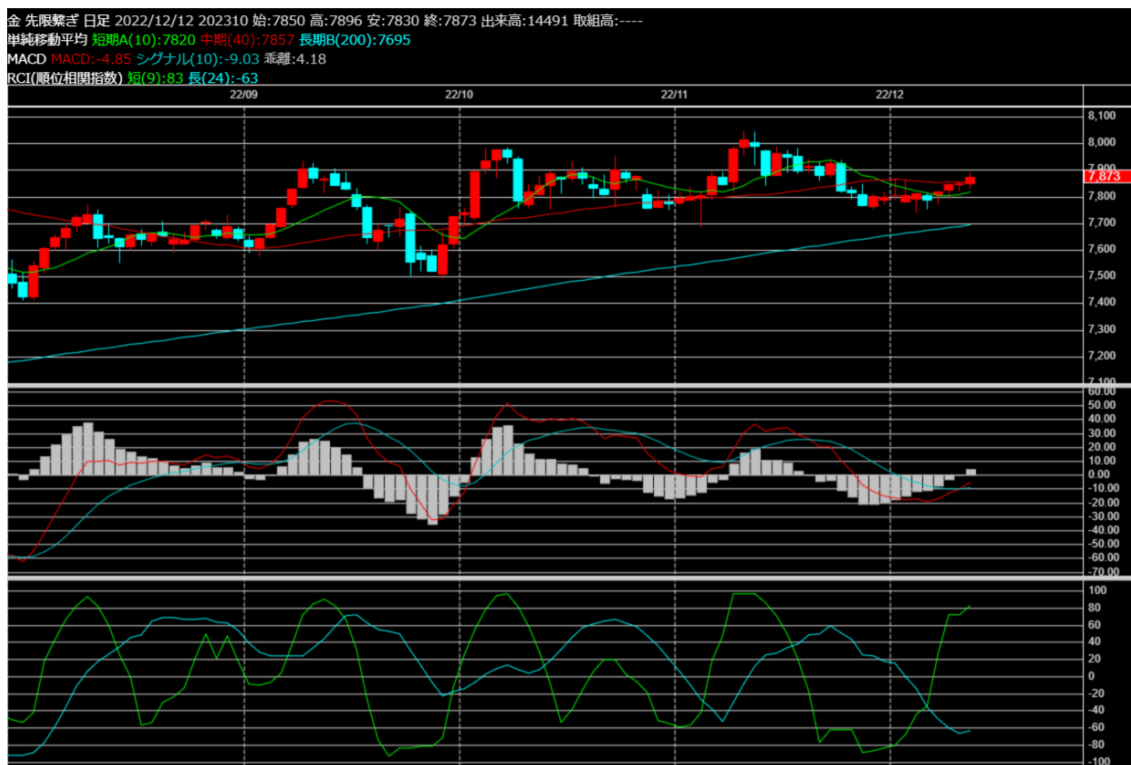


<金標準先物、CPI の低下を示すと再度 8000 円へ・・・>



(出所：オアシス)

依然とインフレ高を示す雇用統計を受けたが、ブラックアウトに入る事から要人発言の自粛を受け WSJ のニック・ティミラオス記者の投稿記事に注目度が高まりを見せている。特に記事では、根強い賃金上昇圧力を背景に FF レート誘導目標金利は投資家の想定を上回る水準まで切り上げる可能性があるとし、5%を超えると述べている。

そのため一時ピークアウトを示していたドル円が雇用統計を機に下げ止まりながら 137 円を維持している。特に NY 金も雇用統計後は、長期に渡り高金利水準を維持する憶測が高まる中で、ウクライナ情勢でプーチン大統領の核の先制攻撃を否定しなかった事や、中国のコロナ規制緩和策などを受けた中国経済の回復期待やリスク逃避の買いで 1800 ドルを回復している。

そのためドル建て価格の上昇と為替市場の円安が重なり、金標準先物は 7800 円を回復すると週末には 7896 円まで戻りを見せている。特に今週は、13 日に CPI、14 日は FOMC を控える中で、0.5%の利上げは既に織り込まれており、13 日の CPI の発表でインフレの落ち着いたことを示す事が出来ると金標準先物は 7900 円を超える値動きが強まると見え、オシレーターの強気転換と合わせて買い有利な値動きが続くと思える。

<テクニカル>

金標準先物の日足の MACD では、MACD が上昇しながらシグナルが下げ止まり、強気のクロスが発生している。また RCI では短期が上昇し、長期も下げ止まるなど、下げのサイクルが終わったパターンを示していると思え、強気の姿勢を維持するのが妥当と思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,075,000 円(2022 年 12 月 12 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2022 年 12 月 12 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>